

## 府中市生涯学習審議会（平成25年度第7回）会議録

1 日 時 平成25年12月2日（月）午後2時～4時

2 会 場 府中駅北第二庁舎 5階会議室

3 出席者

（1）委員13名（50音順）

石田和男委員、井上治男委員、大谷久知委員、川内清文委員、木内直美委員、  
澤井幸子委員、茂田嘉彦委員、設楽厚子委員、芝 喜久子委員、鈴木映子委員、  
寺谷 弘壬委員、三宅 昭委員、山内啓司委員

※小林 繁委員、田野倉晴美委員は欠席

（2）職員3名

矢ヶ崎生涯学習スポーツ課長、市ノ川学習推進係長、大木事務職員

4 開会

5 連絡事項

（1）配布資料の確認

①第2次府中市生涯学習推進計画 平成24年度実績一覧

②ニュースレター 14号

（2）議事録の確認

第5回・第6回会議録（案）について、市民に公開することが了承された。

（3）東京都市町村社会教育委員連絡協議会 第5ブロック研修会の報告

11月2日（土）午後2時30分～ 調布市グリーンホール

■ 調布市社会教育委員の篠崎先生が演出した演劇「シャドーボクシング」は分かりやすく、そして考えさせられるものだった。地域の人と一緒に作り上げた演劇というものの中で、皆さん色々考えたと思う。その演劇の内容は、いじめを受けている高校生が一人で抱え込んでいたが、同居している祖母と会話をしていくうちに立ち直っていく強さを持っていくというものだった。

■ 「シャドーボクシング」は、公募をして素人の方ばかりが出演していたが、素晴らしい作品だった。最後に出演した方が一人ずつコメントと言っていたが、3人の影のボクサーの一人が、「スマホ等のテクノロジーが普及していき、いじめも変化している。今までは打ったり、蹴ったり等、直接的にぶつかり合うようなものだった

たのが、最近陰になって見えない部分でいじめが行われていて、それが問題なのではないか。」という話しをしていた。日進月歩で、常に変化していくなかで、スピードに対応していく考え方をしていかなければいけないと思った。

- 一般の中から出演者を応募して、短期間であれだけの役をすることは素晴らしいと感じた。高校生がいじめられていたが、それを母親には言わず、祖母には話していて、その祖母と孫の関係がすごく上手くいっていた。高校生はすごく祖母に助けられたと思う。そういう演劇という形で発表したのは素晴らしいと思う。

いじめが色々な形で起きている。各学校でも取り上げているようだが、今日テレビで見たのは、いじめられている子どもの母親が学校に相談しにいったところ、学校は真剣に受けてくれなかった。子どもは嫌がって学校に行かなかったので、家で色々な本を読ませていた。子どもは小林一茶の俳句を詠んで俳句に興味を持ち、自分でも書き始め本を出版すると、それが5万部も売れた。その後は5年生でも学校に行けなかったが、6年生になったとき良い先生に出会い学校に通っている。一生懸命訴えても、それが伝わらない切なさを感じて心が痛くなった。その方も祖母と3人家族で今は元気に学校に行っていると聞いて感動した。スポーツでも音楽でも子どもたちに何かできるものがあれば立ち直っていけるのかなと思った。

- 演劇とはいえ、いじめられる側の気持ちが痛いほど分かり、改めて、いじめられる側の辛さを身に染みて感じた。私も学校に勤務するものとして、いじめは絶対にあってはならないという気持ちでいるが、実際問題として、いじめはいつでも誰でもどこでも起こり得るという認識で捉えている。大きな暴力的ないじめはないにせよ、小さい芽は学校の現場ではいくつでもあり得る。小学校のうちから陰湿ないじめがあると聞いているし、今までの経験の中でもあったが、教員や保護者が一緒になって小さい芽を摘んでいくというのが改めて必要かなと思った。学校教育に携わる者として、改めていじめはあってはならないと痛切に思い知らされた。

- 演劇に取り組まれた方々は、市民に分かりやすく示されていたと思う。最後に、いじめられる側にも問題点があるが、いじめる側にもかかえている問題点はあるということで、全体的な目で見れば解決方法を見出していかなければいけないということを書いていたし、いじめている側の中にも入り込まなければいけないと思った。終わってから各市の社会教育委員が問題点を的確に捉えて発表して討論しているのは、熱心な方々だと思ったので、追いつけるように勉強していきたいと思う。

- 前回「めろん」という演劇をやっていて、それらの成果を重ね合わせて良い環境を作ろうということが主体だったと思う。色々な話を聞いていると、すべての市民の学びが笑顔あふれる社会を築くということをもットーとした社会教育の在り方が、非常に強く打ち出されていて淡々と進められていると思った。

■ これを一回見ただけでは、すぐに時は過ぎていくので、忘れ去られるのではないか。前回の「めろん」も同じだが、今回はビデオも撮っているので、社会教育委員はこういう活動をしているということを各関係に出すという提案をアンケートに書いた。

■ 出演者は全員市民がやっている。市民に公募をして、役割をきめて1か月間の短い期間で作り上げた。当日、一般市民の観客も入れていたのは、素晴らしい試みをしたと思った。

いじめ問題の演劇を見て、社会教育委員はどんな動きをすればいいのかを討論していたような気がする。色々な演技をした市民にしても、見に行った方にしても、広がっていく部分があると思うので、調布市は社会教育として地域に知らしめる良いチャンスを作ったと思った。

➡ 事務局の視点としては、出演者を市民に公募で呼びかけると聞いたときは、事務局は心配だったろうと思った。ただ逆に、やって見たら思った以上に反響があり、たくさん集まったと聞いてすごいと思った。また、そういう意気込みで手を挙げて集まった方たちなので、その熱意がすごく感じられた。恥かしながら何度も涙してしまった。最初の理不尽ないじめに対しての涙、家族の暖かさに対しての涙、最後に祖母が亡くなったときの家族との別れに対しての涙。最後の終わり方も一件落着せず、これからもいじめが続いていきそうだが、これから先はあなたたちに考えていただきたいというような終わり方だったので、その辺も非常に考えさせられるテーマの作品だった。

#### (4) 第44回関東甲信越静社会教育研究大会（栃木大会）の報告

11月14日（木）・15日（金） 栃木県日光市

■ 全体会は、「二宮尊徳から学ぶ 人づくり 地域づくり」というテーマだった。今に息づく、基本的なものを捉えて地域づくりをやっていたのだと、つくづく感激した。色々な研究をされてきて、実際の資料をもとにして発表されたので勉強になった。「人為人生」であったことと「一円融合界の実現」をした人が世の中にいたのだと感激した。

社会教育は経験だけを見ないで、上の方から俯瞰的に見ること、教育委員会全体を見ていくことも必要だと思った。私は一つの部署からでたので、そこだけを皆さんに報告してきたが、地域に帰っても上の方から全体的に見回して、府中の社会教育は何をすべきかを考えるという基礎的なことを勉強させていただいた。

■ 皆さんは二宮尊徳を忘れていると思うが、地域づくり、人づくりというところは、この世の中で再度見直されているということで、再認識をするための提案だった気

がする。今回のパネルディスカッションのテーマは、「自らを考え、自ら動き、地域社会をデザインする社会教育委員の役割」ということで、そういうことに触れて社会教育を考えると、社会教育委員は何をするのか。ここに出てきている委員の人たちは、まとまったものがないというのが問題点として挙げられていた。人口密度の少ない地域から出ている人たちは、それなりのプログラムを積んで推進していると見受けられた。ここでは、社会教育委員の役割というのは、各代表ではなく、社会教育委員としての分担と役割があって、府中市の場合は代表として出ているが、その中では検討や討議をするのは代表としてではなく、全体を見て討議をしていかないといけないということが今回の提案事項である。

そしてサブテーマとしての「住んでみたい、住み続けたい、魅力ある地域を目指して」ということが、今回のディスカッションの中身となるが、問題点として、社会の要請に応える社会教育の充実ということで、何があるのかを検討しなければならないし、社会教育行政の評価、社会活動における評価は、本当にされていないのではないか。ただ社会教育委員と言っているだけではないかとの指摘があった。社会教育委員の弊害化ということで、充て職が多いという指摘もあった。社会教育委員が皆さんの意見を取り入れず、もう少し幅広く意見を集約する形をとらないといけないのではないかという意見が出ていた。自然の営みに任せていては、地域崩壊につながるということで、流れの中でそのまま進めていては、地域はなかなかまとまらないという問題点が出された。自分が社会教育委員だという認識を持って、問題点を解決する努力をしなければ、社会教育委員の役割を果たしたことにはならないというのは全体のパネルディスカッションでも話されていた。このパネルディスカッションに登場したのは、それぞれの行政の中心となっている方たちは、社会教育委員というよりも社会教育主事の活動があまりにも見えないと言っていた。

- 第一分科会では、「地域の絆を育むネットワークづくり」ということで、調布市の議長が報告していた。テーマは「地域主体の世代間交流とそこから発生する学び返し」だった。調布市の概要を話したあと、調布市社会教育が目指す将来図を作り、全ての市民の学びが笑顔あふれる社会を築くということについて説明していた。実践内容として、調布市における世代間交流を可能とする地域のおまつり・イベントについて列記しながら具体的に説明したあと、調布市のおまつり・イベントの発展というのは、数多くのボランティア団体が連携を図りながら動いてきている。また、参加者やボランティアには男性が増えてきていて、増えたことで活動が活性化できるようになったと言っていた。未来の人々へ様々な学びを伝承する「学び返し」の効果が高まってきたと言っていた。「学び返し」という文言が府中市から発生したということも皆さんに紹介していただいた。最後に課題として、スマホ等のIT関

係の付き合いが多くなってきているので、人と人との触れ合いが希薄になってきているが、どうやってこの社会と関わっていくかという話をしてきた。また、「学び返し」の中で色々なイベントができていくことに対してお褒めの言葉をいただいた。

- なかなか素晴らしい発表をしていて、府中市の「学び返し」を取り上げていただいた。社会教育委員の勉強熱心さを感じられて、もう少し勉強しなければと思った。活動している社会教育委員は、自ら発信しているのだとつくづく感じられた。
- 第4分科会を希望したのは「市民大学講座」の推進というテーマが掲げられていて、市民大学は作って活動しなければいけないという考えがあったので、他市ではどんなものがあるのか見たいからだった。

事例発表をした妙高市は人口が15万人で、公民館の各分館が地域自治会に統合された。活動の拠点には市民活動支援センターの社会教育団体という組織で活動している。妙高市の市民大学は、公開講座を企画して参加してもらい、その参加者の中から、協力して活動してみたいという人を中心に構成されている。この中身は社会教育委員の正副議長とその他3名の企画委員が最初の企画を行った。また、社会教育委員、全員による実行委員会で市民講座の開設を行った。このように座学より体験学習を多くしたいという目標を掲げている。講座は主要活動の他に歴史や文化の中に入れて作っている。その中身は、行政主導ではなく、あくまでも地域主導型で、第1回は「開講式・景虎法要見学」、第2回は「夢美平植物観察」、第3回「米粉料理教室」、第4回「関山神社火祭り見学」、第5回「国立妙高青少年自然の家見学」、第6回「自主講座「市内企業」見学」、第7回「地域づくり活動の見学」、第8回「森蘭齋を学ぶ・閉講式」という題名から想像していただければ分かると思う。

社会教育主事の役割ということで、今まで3人しかいなかったが、それを8人に増やし活動している。社会教育主事がいないと、こういう形で引っ張ることができないということである。この問題点については、受講者の意識の温度差、永続的な取り組み、地域活性化・地域興しに貢献する受講者の場面設定、行政職員の敏感なアンテナ選び、柔軟な発想を育てていかなければならない。また、他の機関や組織団体との連携を視野に入れた仕組み作りの探求が必要ではないか。個人的負担をなくすと同時に、地域の連帯を深める活動を社会教育委員が進んでやっていかないと地域が良くなれないと言っていた。

#### (5) 平成25年度都市社連協 交流大会・社会教育委員研修会

12月7日(土) 午後1時～5時 羽村市生涯学習センターゆとろぎ

## 6 審議・協議事項

[意見の趣旨] ■：委員 ➡：事務局

### (1) 答申の検討について

- ➡ 事務局より、配布資料「第2次府中市生涯学習推進計画 平成24年度実績一覧」について説明。
- 文化センターの自主グループは館によってはかなり減ってきているように見受けられるが、現状どうなのか。
- ➡ 館の大きさにもよるが、昔から活動している団体の会員が高齢化していて、運営が難しくなって解散しているところもある。交通の便が良くない武蔵台や押立文化センターでは少なくなってきた。逆に、中央や片町文化センターのように交通の便が良いところは、部屋の予約がとれないほどになっている。押立文化センターは改修工事をしているので、そこを使っていた団体が他の施設に流れていることもある。その地域によって雰囲気は全く違う。若い人が多い町やマンション等が建って人口が入ってくる町は増えていくが、昔から一戸建てが多い地域は町自体が高齢化しているところもある。高齢化して会員が10人に満たないという相談が毎年ある。
- 紅葉丘文化センターで活動しているが、ここでも年々、団体数が減ってきている。先日も文化祭があったが、展示室も縮小されてきている。文化センターは、もちろん地域の方が地元で活動するということもあるが、交通事情は大きく影響している。ちゅうバスなどの問題もあるので、地域差が格段にでないようにするのも方法の一つだと思う。
- 社会教育関係団体で、生涯学習センター登録と文化センター登録の違いは何か。
- ➡ どちらも社会教育関係団体という括りの中にあるが、文化センターで活動している団体は「自主グループ」と呼ばれている。元々、文化センターで活動している団体は自主グループと呼ばれていて、後から社会教育関係団体と呼ばれるようになった。各文化センターは各地域の方々にご利用いただくように作られているので、団体登録も活動している文化センターでもらいい、その際に、自主グループ連絡会にも入っていただく。文化センターのお祭りや文化祭等の行事は自主グループのみが参加できるもので、同時にその手伝いもしていただいている。学習センター等を利用する団体については、そういう義務がない中で活動していただいている。
- ただ、地域のイベントやお祭りで触れ合いができ、皆さんの連携がとれるようになるためには、文化センターがうまく使われて活力が出てこないといけないと思う。団体が少なくなってきた文化センターは、確かに高齢化も一因だが、若い人が活動

できる方法はないか。今、高齢化で悩んでいる人たちが若いときは、公民館講座で友達ができ、グループができて自主グループになっていた。今は公民館講座がうまく活用されていないように感じる。それは文化センターの窓口の方と話し合っていかなければならないと思っている。

- 住吉文化センターで長く手伝いをして見てきたが、内容がずいぶん変わった。前は、踊りや絵画等、色々な種類があったが、今は減ってきたように思う。踊りはフラダンスなどがあり、約50団体が活動しているが人数が少なくなっている。
- 若い方が団体を作ろうと思っても仕事をしたりしていると大変だと思う。何かうまく参加できるものがあると思う。
- 老人会が手のひらバレーや輪投げ、ゲートボール等をやりだしている。グループごとは小さいが、いくつかのグループが集まって地域ごとに大会をしている。そういう進め方はあるのか。どこが主体でやるのか。生涯学習スポーツ課には直接コンタクトしていないと思う。老人会は自分たちでやるが、そこをうまくやっていけば広がりができる気がする。
- 文化センターもスポーツ部会等に分かれている。
- 老人会等が独立してやらないで、連携できるような方法をとれば活性化していくということもあると思う。
- 館が活性化されないと地域が沈んでしまう。
- 老人会に入っている人も干渉はされたくないが、自分たちで色々やりたいと思っている。
- 老人会の人でも文化センター祭等で、お手玉を教えたり、ジュースを売ったり、コミュニケーションがたくさんある。
- そういう意味では連携がとれている。必ず地域のお祭りがあるときは、実行委員として会議に参加している。それがもう一歩進めばいいと思っている。
- スポーツに関して、連携がとれないかと思っている。
- 文化センターを中心にして、地域に対する活性化や学習機会と、生涯学習センター等の中央にあるセンターとに差があるような気がする。生涯学習センターやグリーンプラザ等との住み分けや連携があれば、もう少し活性化できるのではないか。
- 体育館を活用したい。各地域にあって皆さん活用しているところだが、どういう絡みになるかと思っている。
- 老人会や町内会は社会教育関係団体に登録しているのか。
- ➔ していない。文化センターは福祉館も兼ねているので、その枠組みで使っている。文化センターごとに老人会があるので、それが全部まとまって府老連になっている。
- 老人会は社会教育関係団体ではないが、自主グループ連絡会の会議に参加してい

るのか。

- ➡ 老人会は、各文化センターにあるコミュニティー協議会という総会のようなものに入っている。
- 中河原に女性センターというのがあり、そこも20周年を迎えて講演会があったが、最初は利用する人が少なかった。今は駅が近くなったせいか、非常に多くの方が利用している。
- 便利なところなので、貸し館としては素晴らしいところである。
- 各館で行っている公民館講座について、趣味が多様化していて、講座を開設するにあたって内容を決めていくのは難しいと思うが、若い人も取り込めるような公民館講座の内容の精査が必要だと思う。昔は公民館講座のあとに、その学習を続けたと思う方は、自分たちで自主グループを作って趣味を伸ばしてくという方法があると職員も伝えていたと思う。今はそういうことをしていない気がする。自主グループを作ることで、意欲も出るし、継続するという形もとれると思うので、考えていった方がいいと思う。
- コミュニティー協議会は自分たちの活動をしているところか。
- コミュニティー協議会は地域の団体の方が入ってきて、活性化させるために事業をしている。
- その中で公民館講座はどこが主催しているのか。
- ➡ 公民館講座の予算は生涯学習スポーツ課、企画・実施は文化センターの職員がやっている。最近では職員の異動が早く、講座を企画・実施しているうちに異動することが非常に多くなっている。料理教室等では地域の方に講師をしてもらっているので、そういうことを増やすことが理想だと思っている。
- そこは疑問に思っているところで、やはり職員がいなくなっていることが原因だと思うので、その穴埋めをしていかなければならない。生涯学習センターがあるのだから、そこから派遣していくような形になればいいと思う。サポートしていく人たちが組織を立てて、やる気にならないと宙ぶらりんになるので、現場の職員も入れてやっていかないといけないと思う。

## 7 次回審議会等の日程について

### ▽第8回審議会

日程：平成26年1月27日（月）午後3時半～5時半

会場：府中駅北第2庁舎 5階会議室

以上